



こんにちは、三原じゅん子です。今の国の政策は「自己責任」「自助努力」ばかりを強調し、あらゆる分野で、最も支援を必要とする社会的弱者が社会保障から排除されるという事態が広がっています。「格差」が急速に広がり、生活不安を訴える人は過去最高の68%に達しています。住民福祉を担うという自治体の役割を、今こそ発揮することが重要になります。

三原の遠距離通学費補助が3割削減 保護者にリスクを強いています

すずらん台の場合

定期の種類	年間総額	保護者負担	市補助	現行	H19年度
1ヶ月定期	年間9万	5万	4万	5.9万	3.1万
3ヶ月定期	年間8.4万	4.4万	4万	5.3万	3.1万
年間定期	年間6万	2万	4万	2.9万	3.1万

現行は3ヶ月定期を基本に考えていたものを...

年間定期を基本にすると市は言うのですが...

滝の原の場合

定期の種類	年間総額	保護者負担	市補助	現行	H19年度
1ヶ月定期	年間11.4万	5万	6.4万	6.7万	4.7万
3ヶ月定期	年間10.8万	4.4万	6.4万	6.1万	4.7万
年間定期	年間7.6万	1.2万	6.4万	2.9万	4.7万

- 今までは買いやすい3ヶ月定期が基本だったが、「値段の安い年間定期を基本に変えた上で、保護者負担を一律29000円にした」と市は説明。
- 元々一番割安の年間定期を買わない人がいるのは紛失・盗難の際に再発行が難しく、リスクが非常に高いから。
- 子どもの多い家庭では、いくら年間定期が割安と言っても、年度始めの出費がきつすぎます。
- 就学援助制度もあるが、6Km以上の地域のみで昨年度の収入で審査される。今困っている人は利用できない。
- 併せて自転車通学の補助[中学2・3年：7000円]が廃止になった。名張の地形は坂が多く、安全な通学のためにはブレーキやタイヤのメンテナンスは必須。



名張市の保護者負担の軽減を図って見直した。
紛失の場合は、担保の確保は難しいが、
【・保護者から誓約をもらう・校長の意見書・警察への届け】で再発行は可能。
しかし唐突にはできない。
スクールバスは導入の道筋を考えていく

従来保護者負担が1.2万や2万円で済んだ年間定期が2万9千円にあがるのに、「保護者負担の軽減を図って見直した」とはあきれます。どの買い方でも現行の場合からは負担増です。いくら割安でも年間定期は高額です。学校で貴重品を持ってこないように指導するのは限界があるからです。定期をなくせば生徒は責められますし、先生は探さなければならないし、保護者は買い直さなければなりません。こういった事は実際に起こっていることです。リスク回避のため3ヶ月定期や学期定期を購入すれば、遠距離の人ほど過酷な保護者負担のしかかる施策になっています。市は紛失対策もあげていますが、担保の確保はなく、保護者の負担増のみ明確になっていて、一方的で無責任です。これでは安心して子どもを産み育てることはできません。少子化対策に逆行するものです。無償のスクールバスの導入を強く求めます。



- 多くの偏見を受け、障害者本人にも家族にもきびしい社会状況
- 病気と障害を併せもち、他の障害者に比べ無年金者が多く、経済的に日常生活が成り立たない人が多い。
- 継続的治療が重要なので、経済的理由により通院や服薬の中断を余儀なくされると、病気が悪化してしまう。
- 国の医療改革により医療費負担が増えるなか、名張市の助成は当事者や家族にとって本当に必要なもの。



- 今年1月からし尿等の海洋投棄が禁止になったため、すずらん台では段階的に月額千円の値上げとなった。
- 住宅開発時にできた25ヶ所の汚水処理施設は老朽化している。
- 住宅地の大型合併浄化槽は、長い間民間まかせで、料金格差がある。



- 子どもの通学時の悲惨な事件・事故が相次いだことから配置されたもの。子どもをとりまく問題が解決されたわけではない。
- スクールガードの方々は誠心誠意で児童の登下校時の安全に携わっている。スクールガードの効果は高いと思われる。
- 保護者も見守り活動をしているが、親も仕事をもち、核家族が多い中、

